

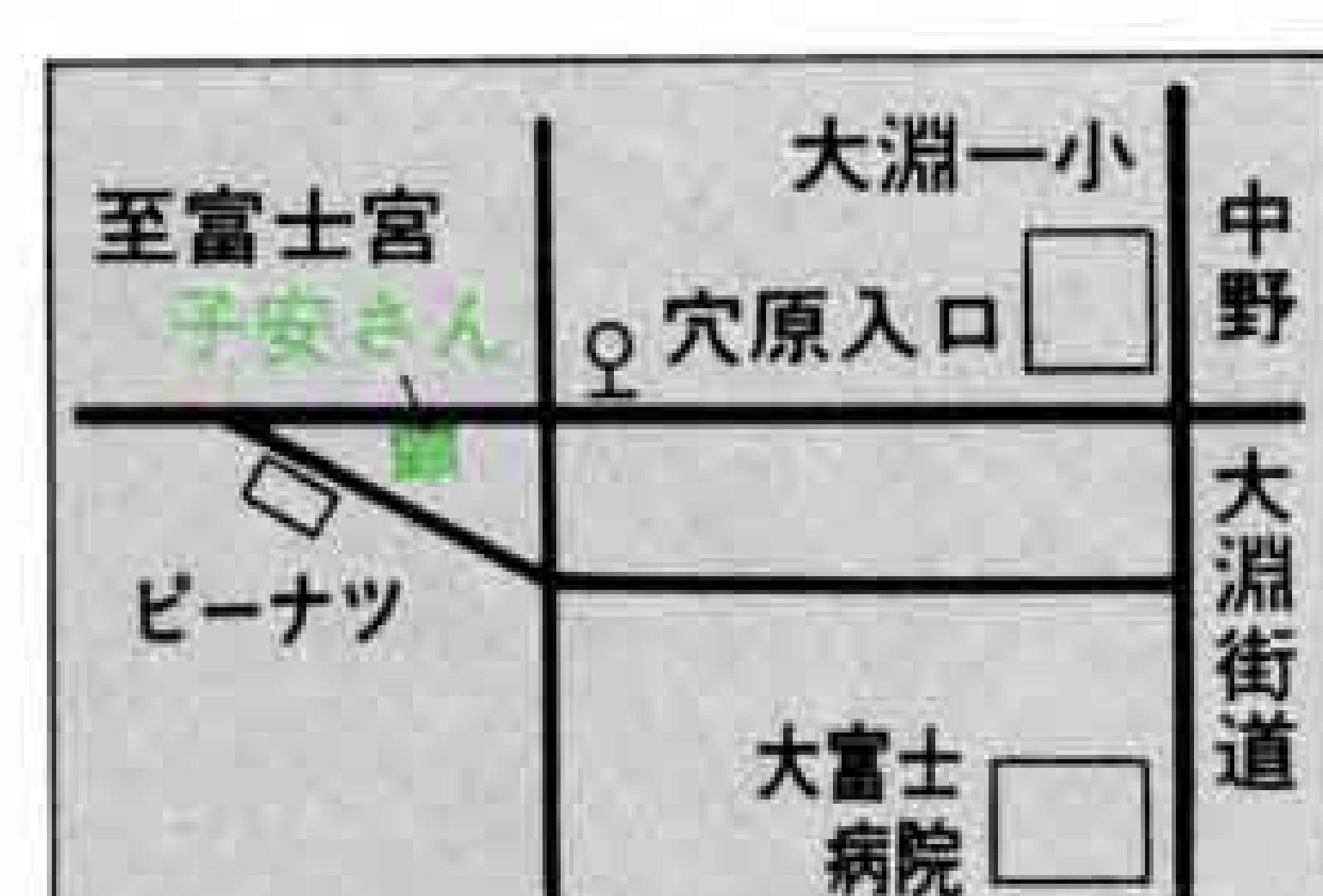
ふるさとの昔話

江戸時代後期のころです。大淵の穴原に稻葉さんという産婦人科のお医者さんがいました。医師など満足にいなかつた時代ですから、人々は稻葉さんを頼りにし、稻葉さんも心優しい人でしたので、人々の信望を集めました。子供が授からない人、授つかず産まれた子供を幼くして亡くなってしまった人など、人々のいろいろな苦しみを見ってきた稻葉

さんは、自分の家の竹林に子安堂を建て、鬼子母神を祭りました。あるとき、子宝に恵まれない夫婦が、子安さんにお参りしました。すると、ほどなく二人に待望の子供が授かりました。二人は大喜びで、そのあとも「無事丈夫な子供が産れますように」とお参りを欠かしませんでした。ある晩のこと、妻の夢まくらに「子安堂に上げて小さくなつ

安産のお告げ

鬼子母神を祭る



大淵・穴原に地域の婦人会の皆さんがあります。今回お祭りしている子安さんがあります。今回は穴原一の勝亦さか江さん(六十七歳)に、子安さんに伝わる話を伺いました。

たろうそくを、陣痛が来たらどうもしなさい。ろうそくが消えるまでに丈夫な赤ちゃんが産まれるだろう」というお告げがありました。

お告げのとおりに、ろうそくをともすと、玉のような赤ちゃんが生まれました。

勝亦さんは「お堂には、享和文化という年号の木札が残されています。今は、穴原婦人会の皆さんのが旧暦の三月十五日にお堂に集まり、地域の子供たちにお赤飯をふるまっています。実際に、お参りしたら子宝に恵まれたという話は、今でも聞きましたよ」と話してくれました。

靈験あらたかですよ

富田貴子さん。

彼女は、OLから日本語教師に変身。日本語熱の高まるアメリカの高校生に、日本語と日本の文化を教える準教師として赴任します。

行き先は、北アメリカのウィスコンシン州メノモニー。ここは、あの「大草原の小さな家」の、ローラのふるさと。そして、酪農と小麦の産地。

一体、何が待っているのか、いろいろ考えたって仕方ない!ちょっと変わった見方と遊び心を大切にして、8月19日、出発します。



遊々タイム
②
【日本語教師】

今、絵本や童話、子供向けの日本の暮らしが書かれた本を、一生懸命に集めているのが、大淵の

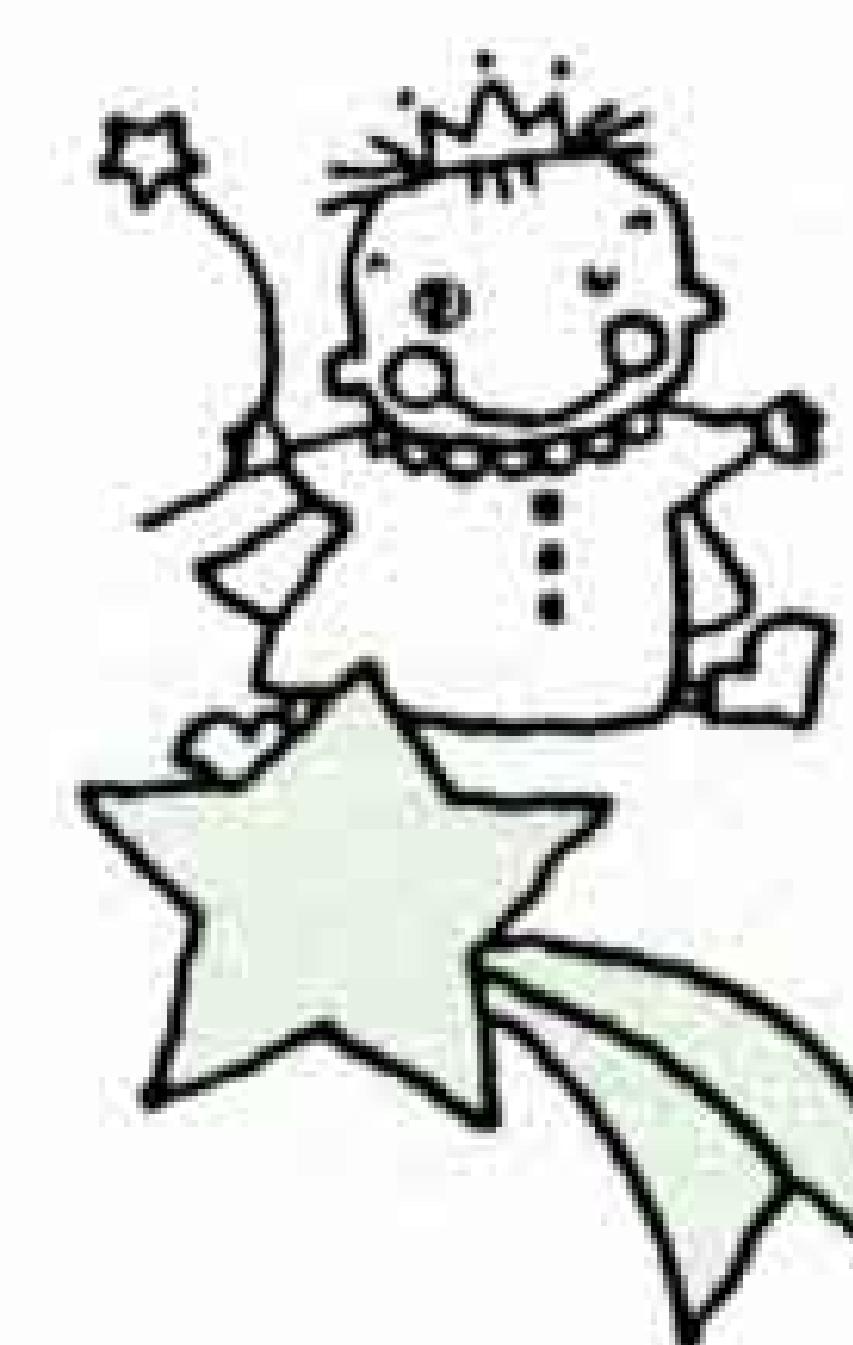
市民プールの石井利典さん

夏休みといえばプール。市には公営プールが幾つかありますので、上手に利用したいかがでしょうか。

市民プールの石井利典さんは「入場料は大人二百円、高校生一百円、小・中学生五十円。家族でお弁当を持ってくれば、一日

ことを思えば、お得なレジャーができます。また、成人には、夕方の使用をお勧めします。子供は午後四時三十分に帰りますから、競泳プールでゆったりと泳げます」とP.R.

【三】



こちら編集室

6月×日、編集室のずっとこけコンビは、本号の表紙にとザリガニの撮影に。案内は東小の4年生5人。す

ぐに見つかると思いきや、2時間搜して獲物はたったの2匹。写真も結局没に。東小の皆さんごめんなさい。